ニューズレター

第９号
2018年４月１日発行

（公財）日本テニス協会
テニスミュージアム委員会
〒150-8050　東京都渋谷区神南1-1-1
岸記念体育会館
電話：03-3481-2321

2018デビスカップ・フェドカップを振り返って

強化本部長　植田　実

岩渕聡監督、杉田祐一キャプテンを中心に大活躍した日本チーム
ダニエル太郎、マクラクラン勉、内山靖崇、添田豪　　写真提供：ベースボールマガジン社

　デビスカップは岩渕監督の二戦目となる。盛岡でのイタリア戦は錦織、西岡を欠くチーム編成となった。一方のイタリアはフルメンバーで来日。昨年のブラジル戦から日本のエース杉田祐一は今回もチームを引っ張った。最終日フォニーニに５セットで敗れはしたが、初日にセッピを破りリーダーとしての働きを示したと言える。ダニエル太郎もフォニーニをあと一歩まで追い詰めた。ダブルスはマクラクランが全豪SF進出後、ダブルスとしての可能性を見せてくれて内山をリードした。しかし、いずれも最後の１ポイントが取れない。ショットの精度、メンタルを支える経験はこういう場面で試される。決定力、精度共にイタリアが一枚上であったことを認めなくてはならない。ほんの僅かな差にみえるがこの1ポイントをものにするためにどれほどの時間と経験を要するかチャレンジするしかない。

　フェドカップは土橋監督となり三年目のアジア/オセアニア予選となる。過去二回は決勝でプレーオフ進出を阻まれた。今回はインド・ニューデリーでの試合となるためコンディションが重要なポイントとなった。スタッフ一人一人が役割を果たし選手のパフォーマンス向上に貢献した。特に決勝戦での奈良は精神的に安定したプレーで貴重な一勝をもたらしてくれた。日比野は経験の少ないチーム戦で苦しみながらも貢献した。また、ダブルスの加藤と二宮はグランドスラムで磨いた力を遺憾無く発揮しワールドグループへの扉にたどり着いた。

　男女とも世界の扉に手をかけ、「開けたかと思うと閉められたり」を繰り返しているのが現状である。しかし、今までと違うのはデビスカップは錦織、西岡不在の中でもチームレベルをあげていることと、ダブルスの要となるマクラクランが成長し戦略的に幅が広がった。フェドカップは大坂なおみの爆発的パワーの影に隠れているが、1994年生まれのメンバーがグランドスラムで開花し始め、特にダブルスでの安定性が増大した。全ての選手が万全で臨むことは簡単なことではない。しかし、その心技体知のコンディションを集中できた時、1921年偉大なる先輩方が歴史を刻んだアメリカとのチャレンジラウンドの再現ができると信じている。そして、その歴史を変える力が今の日本テニスにはある。

アジア/オセアニアゾーンを突破！　土橋登志久監督と二宮真琴、
加藤未唯、奈良くるみ、日々野菜緒　　写真提供：ベースボールマガジン社

テニスミュージアム設立

テニスミュージアム委員長　小田晶子

　皆様、お障りなくお過ごしの事と思います。
　大坂なおみ選手のインディアンウェルズ優勝に続き、尊敬するセリーナを破る快挙、強烈なサーブと相手の逆を突くショットを胸のすく思いで多くの方が見て居られた事でしょう。益々の活躍が楽しみです。
　日本女子テニスのレジェンド故宮城黎子さんのご遺志により、平成20年度から積み立てて来たテニスミュージアム寄附金活動は、平成26年度より第2次5か年計画に入り、累計募金額は49,400,021円(2018年2月末現在)です。1,929件の個人及び団体からの貴重なご寄附を頂き皆様の暖かいご支援に心から御礼を申し上げます。
　この活動の目的は、日本のテニス文化を守り育て、その伝統を後世に伝える事です。具体的には、テニス史資料の収集、整理、保存、復元、展示、貸出し、webテニスミュージアムの充実、等のテニスミュージアム設立に関わる各種活動を行っており、皆様からお寄せいただいた貴重な浄財による成果には以下のものが含まれています。
●日本初のオリンピックメダルのレプリカ製作(1920年アントワープ五輪での熊谷一彌・柏尾誠一郎両選手で獲得のダブルス銀メダル)
●DVD製作：デ杯「甦る田園コロシアムの熱戦・日本庭球協会誕生とデビスカップへの挑戦」、フェド杯「日本女子テニス・栄光への道のり～フェデレーションカップの時代～」、全日本「全日本テニス選手権90回の軌跡」●ニューヨークカップを戦後70年振りに復元
　今後は史資料のアーカイブ化、日本のテニス界に貢献された先人のレリーフ作製を予定しています。
　2021年3月には日本テニス協会設立100周年を迎えます。テニスミュージアム寄附金活動の集大成となるミュージアム設立に向けたご支援を、今後共、宜しくお願い申し上げます。

女子連がIOC「女性スポーツ賞」受賞

共同通信　小沢　剛

日本女子テニス連盟武正八重子会長とIOCバッハ会長
2017.11.9　スイスローザンヌでの表彰式

写真提供：日本女子テニス連盟

IOC女性とスポーツ賞
（IOC Women and Sport World Award）
2000年創設　世界五大陸から、女性スポーツの促進、スポーツ界における女性の世界レベルの向上を目的に、顕著な功績を残した個人もしくは団体に授与される。

日本女子テニス連盟（女子連）が、国際オリンピック委員会（IOC）の2017年「女性スポーツ賞」（アジア地区）を受賞した。あまり知られていないが、この賞は女性のスポーツ参加などに貢献した個人、団体に贈られるもので、日本ではこれまでマラソンの五輪メダリスト有森裕子さんが2010年に受賞している。

IOCは「日本女子テニス連盟は、さまざまな手法を用いて女性のテニス参加を促進し、その活動を通じてワールドクラスの女子選手を生み出すとともに女性のスポーツ参加を増進させた」と受賞理由を挙げた。

アジアの女子連以外にアフリカ、米州、欧州、オセアニアの各大陸から該当者が選ばれ、大賞は草の根のスポーツ振興と女性進出に貢献したフィンランド女性が選出された。また新設のコーチ特別功労賞には小谷実可子さんらシンクロナイズドスイミングの名手を育てた金子正子さんが選ばれた。

11月初め、IOC本部のあるローザンヌ（スイス）で行われた表彰式には５代目会長の武正八重子さんらが和服姿で出席、重いトロフィーを受け取った。武正さんは「世界で認めてもらい、輝かしい賞を受ける夢のような感じでした。女子連の50年の歴史の中でコツコツ積み上げてきたものが実った。全国３万２千人の会員全員でいただいた気がする」と感激していた。

よく知られているように女子連は1967年、「女子のテニスは女子の手で」のスローガンの下に22人の発起人でスタート。初代の桑名寿枝子さんから井上早苗さん、宮城黎子さん、飯田藍さんが会長を務めてきた。女性のテニスの仲間づくり、普及から始まり、今では全国47都道府県に支部を設け、そこでの予選を経て行われる全国レディース決勝大会は女性テニス愛好者のあこがれの舞台「ママさん、女性たちの甲子園」になった。

また2002年に始まるピンクリボンレディース大会は、乳がんの早期発見の啓発活動につながった。マンモグラフィー購入や、予選会場に検診バスを入れて、希望者には低額で検診に応じている。

こうした地道な活動や社会への貢献が評価された。また女子連からウィンブルドンなど四大大会へ審判も送っている。

沢松順子、和子姉妹時代に同じ兵庫県で腕を競った旧姓松田八重子の武正さんは「こういう賞をいただき、心新たに活動していきたい。女性や子どもにテニスを普及するためには女性指導者の育成が大事だと思う。日本のトップにつながる女性プレーヤーの入り口を築いていきたい」と抱負を語っていた。

錦織 圭・国枝慎吾 復帰　　上地結衣 躍進

国枝慎吾

写真提供：Hiroshi Sato/T Japan

全豪オープン車いすテニス2018
男子シングルス優勝
vs ステファン・ウデ（仏）46・61・76（3）

写真提供：Tennis Japan

RBCテニス・チャンピオンシップス・オブ・ダラス
2018.1.30~2.4
男子シングルス優勝　vs マッケンジー・マクドナルド（米）61・64
左から **M・チャンコーチ、錦織圭、D・ボッティーニコーチ、中尾公一トレーナー**

全豪オープン車いすテニス2018
女子ダブルス優勝　上地結衣／マリヨレン・バウス（蘭）
vs ディーデ・デフロート／アニク・ファンクート（蘭）60・64
女子シングルス準優勝　vs ディーデ・デフロート（蘭）67・46

上地結衣

写真提供：Hiroshi Sato/T Japan

2017年4大大会車いすテニス戦績	
女子シングルス	全豪・全仏・全米優勝 全英ベスト4
女子ダブルス	全仏・全英優勝、全豪準優勝

楽天ジャパンオープン 2017

（2017.10.2 ～ 10.8　於・有明コロシアム 2 階 JAPAN OPEN MUSEUM）

▲近代のラケットの数々

◀懐かしいプログラム・テニス雑誌

▲ MUSEUM 入口の選手等身大パネル　撮影スポットになりました

三菱 全日本テニス選手権 92nd 展示

（2017.10.21 ～ 10.29　於・有明コロシアム 1 階東ロビー）

▲全日本選手権会場の変遷パネル

▲特別展示　福田雅之助生誕 120 年　宮城黎子生誕 95 年

▲展示会場全景

若き日の、熊谷一彌選手の スポーツマンシップ

作成：藤沢市郷土歴史課

オレンジボウルの歴史
Junior Orange Bowl Tennis Championships

トピックス：1
トピックス：2

全日本選手権展示パネルは、日本テニス協会ホームページ、
テニスミュージアム委員会の下記アドレスからご覧になれます。
http://www.jta-tennis.or.jp/history/tabid/510/Default.aspx

▲テニスシューズの歴史（3D プリンター復元品も）
協力：㈱アシックス

▲オレンジボウルカップ

▲マクラクラン勉・内山靖崇
サイン入りシャツ

平成29年度
特定寄附金 テニスミュージアム会計報告書

平成29年4月1日～平成30年3月31日

平成28年度末基金残高	24,393,940円
平成29年度寄附金額（H30.2.28まで）	5,398,244円

webデータベース写真加工費	972,600円

平成29年度委員会活動費　　　JTA予算　369万円

主な活動　全日本選手権歴史展示事業
ジャパンオープン展示協力
史資料の収集･整備､データベース化作業
ニューズレター発行､webテニスミュージアム更新
有明倉庫､岸体地下倉庫など分散史資料を新木場
ジェイアール倉庫に引っ越し作業
委員会･全体会議開催

〈掲示板〉

●デ杯「甦る田園コロシアムの熱戦」DVD、フェド杯「日本女子選手・栄光への道のり～フェデレーションカップの時代～」DVDをご希望の方はミュージアム委員会にお問い合わせ下さい。「日本のテニス」、テニス絵葉書（３種類）は、JTAweb「JTA STORE」で頒布しています。　**URL:http://www.jta-tennis.or.jp/**

●古いラケット、文献等のテニス史資料の情報、又、住所、姓名の変更も、JTAテニスミュージアム委員会Email:museum@jta-tennis.or.jpまでお知らせ下さい。

特定寄附金「テニスミュージアム」へのご寄附のお願い

振込先口座名：公益財団法人日本テニス協会 寄附金
金融機関：ゆうちょ銀行　**口座番号**：00130-0-504638
振込先口座名：公益財団法人日本テニス協会　テニスミュージアム寄附金
金融機関：三菱東京ＵＦＪ銀行　**支店名**：渋谷中央支店　**口座番号**：（普通）0272922
クレジットカードによる寄附は、JTAホームページ募金サイトから直接お申込み頂けます。

■テニスミュージアム委員会■

委　員　長：小田晶子　副委員長：吉井　栄、水谷　光
常任委員：後藤光将、武内　勝、福田達郎、小林やよい、越智和夫、西澤太郎、清水伸一、小沢　剛
中川智文、塚越　亘、山森正樹
委　　　員：宮城　淳、市山　哲、我孫子和夫